

はじめに

静岡県大井川町にある環境創造研究所は、水質に関する分析・調査研究や水域生物生態系の分析・同定、実験研究を行うための拠点として、海水と淡水の両方を取水して実験に供することができる適地を求めて、10年前の平成4年5月、大井川河口の大井川港に隣接した工業団地内に開設されました。

開設当時は、敷地面積約6,500m²、化学分析と生物分析の約30名のスタッフでしたが、10年後の今日では、敷地面積は倍の約12,500m²、約90名の職員にパートスタッフを加え、約150名が勤務しております。

また、もともとは海や湖の汚濁に関する調査研究、水質と生物の分析・同定に加えて、富栄養化の機構を解明するための実験検討やプランクトン等の増殖実験が主でしたが、今日では、開設当時はほとんど話題にもとぼらなかったダイオキシンや環境ホルモン物質の分析、あるいは、生物への影響検討といった調査研究がかなりのウエイトを占め、年間20～30題の学会発表や論文投稿ができるまでになり、環境情報の発信基地としての役割の一翼を担えるまでになりました。



一般講演

- ①「ダイオキシン問題の行方」
松村 徹(当社環境リスク研究センター長)
- ②「環境ホルモン物質の生体影響」
宮本信一(当社環境リスク研究センター研究員)

特別講演

- ③「健全な環境をつくろう-水環境とわれわれの生活をめぐって-」
須藤隆一(埼玉県環境科学国際センター総長、
前東北大学教授、元日本水環境学会会長)
- ④「知られざるシラスの生態」
魚谷逸朗(東海大学海洋学部教授・学部長補佐)

開設以来、地元の静岡県や大井川町には、種々のご支援をいただいておりますが、業務の性格上、地域に密着した企業とは言い難く、なじみの薄い企業であったと思います。しかし、10周年を期に、地域に開かれた企業、地域社会とともに発展し続ける企業でありたい、また地域における環境教育の一端を担うことができたらとの思いから、5月17日、18日の両日、「環境の未来創造に向けて」と題して、記念シンポジウムの開催と研究所の公開を実施しました。

シンポジウム、研究所公開とも参加は自由とし、静岡県内を中心に、国、県、自治体の各関係機関、大学等研究機関にご案内するとともに、大井川町のご協力を得て、全町民や小中学校にもチラシを配布し、広く参加を呼びかけました。

記念シンポジウム

5月17日(金)の午後に、大井川町文化会館(大井川町ミュージコ)を会場に、4題の講演を行いました。あいにくの雨にもかかわらず、地域住民や中学生も含めて約170名の参加を得、会場ロビーには、サクラエビの飼育水槽(詳細後述)を展示し、参加者の注目を浴びました。

演題と演者は左のとおりです。

演者には、環境を専門としない一般の方にもわかりやすい講演をお願いしました。須藤先生には、このシンポジウムのテーマである「環境の未来創造」に我々がどのように取り組むかをわかりやすく解説いただき、魚谷先生には、地域の特産であるシラスの生態に興味深くお話いただき、5年を要した研究過程を通じて、全く未知な課題に対する研究のアプローチはかくあるべきものだということを思い知らされ、我々研究者・技術者にとっても姿勢を改める良い機会を得ることができました。

また、日頃、専門分野の方々にはしか接していない二人の職員も、講演に当たって、一般向けの話題構成、資料作成に苦心したようです。

研究所の公開

翌5月18日(土)は、10～14時の4時間にわたり研究所を公開しました。前日を凌ぐ土砂降りの雨で、来場者がいないのではとの不安が職員の間には広がりましたが、10時開場とともに2台、3台と駐車場に車が入ってくるのが見え、最終的に、公開4時間で120名の来場者があり、職員はその対応に追われる結果となりました。小中学生を連れた父母も多く来場し、帰り際に「こんな施設が大井川町にあるとは知らなかった」「すばらしい施設で勉強になった」「子供が喜んで帰りがらない」「是非毎年公開してほしい。毎年が無理なら15周年にはやってください」等々の言葉を残していただけました。

主な公開内容は次のとおりです。

- ① サクラエビ飼育水槽:「サクラエビの養殖に成功して、生きたままの踊食いやかき揚げにできれば、大井川町のいい産業になる」、町の期待を集め、漁協の全面協力のもと、とにかく「大井川町の特産であるサクラエビが元気に泳ぐ姿を展示すること」が大きなテーマとなりました。サクラエビの漁期が始まった3月末から、漁に出る船に数回乗せてもらって採取、担当者は、どうやって元気に生かし続けるかに苦心していましたが、最長3週間の飼育に成功、展示水槽でも元気に泳ぐ姿が注目を集めました。
- ② 水生生物展示:サクラエビ以外の水生生物の展示として、カブトガニ水槽、タナゴ等の淡水生物生態系水槽、

大井川港の潮間帯生物再現水槽、スズキへの給餌体験水槽、マダいの循環飼育水槽、水生生物のタッチプール、プランクトン観察等を用意しました。人気はスズキへの給餌、タッチプールで、30分以上もその場を離れない子供たちで賑わいました。潮間帯生物再現水槽は、我々の眼には画期的かつ芸術的に思いましたが、来場者は立ち止まって感心するだけで、やはり、体験型の展示コーナーが人気でした。

- ③ 環境化学体験:おいしい水試飲(海洋深層水や硬度の違いミネラルウォーター試飲)、臭い当てクイズ、簡易水質検査等のコーナーを設け、体験してもらいました。
- ④ パネル展示:当社の業務内容を簡単に解説したパネルや当社製品を展示したほか、シックハウス症候群等と一般住民の関心がありそうなテーマについて解説しました。

環境創造研究所の全職員が一丸となって手作りで取り組んだ今回の記念イベントは、初期の目的を十分に達成でき成功であったと確信しています。準備段階や実施段階で、個々のスタッフの隠れた才能に目を見張り発見できたのが大きな収穫であり、何より研究所職員の連帯感を強める結果となったことが最大の成果でありました。

